学校番号	1010

令和２年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅲ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	書Ⅲ　（光村図書）						
副教材等	自主教材プリント						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書道Ⅰ・Ⅱで身につけた書写能力を基盤に、古典の書の臨書や創作を通して、書の美について総合的に学びましょう。
・線質の変化がもたらす書の印象の違いを創作に生かすことで、書に関する興味・関心を深め主体的な構想に基づく個性豊かな作品づくりを通して、書を愛好する精神を育てます。
・書の歴史や文化の理解を深め、書の美を分析的・総合的に鑑賞し、他の多彩な芸術分野や諸文化との関わりについても考察を深めていきます。

２　学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情と書の文化や伝統を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな書の能力を高める。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書が身近なものであることを実感し、書の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさや表現を感取し、感性を働かせながら、主体的に表現を工夫している。	創造的な諸表現をするために、基礎的な能力を生かし、また使用する用具用材の特性を理解し活用できるよう様々な表現技術の習得をめざす。	日常の書や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを書の表現意図を、創造的に味わって鑑賞する態度を育む。
評価方法	作品 レポート	作品 レポート 自己評価表	作品	鑑賞レポート ワークシート 発表

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4・5・6・7月	書体の多様性	古典による臨書学習 ・篆書、散氏盤など ・隷書、礼器碑など ・草書・行書 喪乱帖・温泉銘など ・楷書、爨宝子碑など 以上の中から展覧会への出品作品を選ぶ	○	○	○	○	a: 字形の違いにより生じる文字の雰囲気の違いを考えて意欲的に取り組もうとしている。 b: 用筆法により生じる線質の違い、また用具を変えることで出せる表現を考え工夫している。 c:作者の意図しない自然な運筆のリズムや呼吸により生じる造形の変化を読みとり作品に合わせた技能を身に付け表している。 d: 各々の作品の内容・制作時の背景などにも着目し、鑑賞・臨書の手がかりとし、その良さを味わっている。	観察 レポート 作品 自己評価表
8月	課題・硬筆	楷書硬筆プリント	○		○		a:国語科書写の基礎的な能力を身に付け、主体的に取り組もうとしている。 b:国語科書写で身に付けた基礎的な能力を生かして表現を工夫している。 c: 均整のとれた文字構成を覚え表現している。 d:日常生活の硬筆の書の効用について理解している。	作品
9・10・11月	仮名の書	臨書学習 秋萩帖 升色紙 桂宮本万葉集 十五番歌合 巻子本古今和歌集など	○	○	○	○	a:古筆の書美に関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b:用筆や線質などの特徴を理解し、書風を生かした表現を工夫している。 c:主体的に構想し構成や用筆方法を身に付け表現している。 d:、古筆の書美とその表現方法を理解している。	観察 作品 レポート

12 ・ 1 ・ 2 ・ 3 月	漢字仮名交じりの書	卒業制作 自己表現作品 表装 鑑賞会	○	○	○	○	a: 線質、墨の濃淡、墨の潤滑、用紙の工夫、全体構成などを工夫して自分の言葉のイメージを表現につなげようとしている。 b:表現形式に応じて全体の構成を工夫している。 c: 言葉を効果的に表現する表現を考え、今までに学んだ技能を使い表現している。 d:作品から感じたことを考え伝えながら理解を深めている。	観察 作品 レポート ワークシート 発表

※　表中の観点について　a:書への関心・意欲・態度　　b:書表現の構想と工夫
　　c:創造的な書表現の技能　　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。